

《川崎市長 阿部 孝夫様のご挨拶概略》

川崎には有数の企業や大学等の研究機関が主要な研究開発拠点を設け、優秀な研究者や技術者が集まっています。羽田空港の再拡張国際化なども控え、その対岸に位置する殿町3丁目地区では環境分野やライフサイエンスといった産業集積を進め、先導的な研究開発の拠点形成を推進しています。また原料調達から廃棄に至るまで、ライフサイクル全体でCO2削減に寄与する製品や技術等の評価モデルを構築し、低CO2川崎パイロットブランドと位置付け選定を実施しています。持続可能な地球環境実現に向け、環境技術の海外移転を通じ、川崎の地から環境産業革命の動きを世界に展開していきたいと考えます。環境分野や産業化の実現において皆様方のご支援を是非いただきたいと願っております。



《神奈川県知事 松沢 成文様のご挨拶概略》

神奈川県では、「インベスト神奈川」と題して研究開発型の企業誘致を行い、130社近く、約6千億の新たな投資を実現しました。これまでの直接投資や誘致に対する減税などの取り組みから、今後は更に研究開発支援を行うプロジェクトへとシフトします。特に地元の中小企業との研究開発プロジェクトに対しての支援を強化します。地球温暖化対策に向けては、新エネルギーの開発やLED、電気自動車など、13のリーディングプロジェクトを動かしています。日本政府が打ち出したCO2削減目標実現のためには、体系を180度転回するような新たな環境技術を生み出す他ありません。自然系新エネルギー、蓄電池の技術など、様々な技術開発がなされていますが、神奈川県でも先進的な取り組みを行っています。是非とも神奈川の地から新技術を目指す起業家を皆さんでサポートし、経済の活性化に向けて、更にご尽力くださるよう、心から期待いたします。



《パネルディスカッション概略》 ※冒頭にVTR放映

・日本では全てにおいて個人補償が求められる制度や、起業家が尊敬されない文化など、壁は大きい。カルチャーとしてベンチャーを許容する文化を作るべきだ。また、日本は改良モデルを作っていく事には長けているが、新しいモデルを作るという発想にはまだまだ乏しい。日本でも知的生産拠点として、世界的なリーダー達を呼び込む施策など、思い切ったアクションが必要である。



・成功への原資を得るために、直接投資がうまく回るメカニズムが必要。日本の金融機関がリスクに応じたプライシングの利率を決定する能力を身につけ、担保主義ではない欧米型の金融システムの構築が急務である。

(左から) 玉塚 元一氏、南場 智子氏、財部 誠一氏、内田 和人氏、呉 雅俊氏

・台湾、シンガポール、韓国など、グレーターチャイナの領域や周辺には日本が協力し合えるところがたくさんある。良い技術を持つ会社は、それを評価してくれる海外市場にてどんどんIPOし、ネットワークを作り、資金調達をするべきである。それによって、日本も変わりうるのではないか。

《財団法人日本総合研究所 会長 寺島 実郎様の総括講演概略》

・景気底上げのために財政出動を図り、加えて超金融緩和の状態である現状に、過剰流動性という言葉が頭をよぎるが、それはまさにエネルギー価格の乱降下を背景に、マネーゲーム再びという構図なのである。COP15を通じても見えてくるが、誰が責任を持つべきかなどの政治ゲームや排出権でひと儲けしようとするようなマネーゲームの議論に振り回されるのではなく、実態のある環境とエネルギーに対する「技術」と「プロジェクト」を通じた取り組みが問われている。



・グリーンニューディールのコンセプトとの相関における方程式は、「グリーンニューディール=EV(電気自動車)×RE(再生可能エネルギー)×IT」である。電力・通信・さらにその上に乗っかるアプリケーションレイヤーにおけるプロジェクトなり、事業モデルに誰がどういう事を構想し、実現してくるかという局面にある。

・スマートシティや低炭素インフラ事業などが、インフラ上にどう展開されるのか、まさに息を飲むタイミングに差し掛かりつつある。冷戦型の世界観、つまり地政学的にしか物事を捉えないとする考え方から、ネットワークと小型分散という「相関」がこれからの世界史をグリップする時の基本的な視点となるだろう。ネットワーク型で物を捉える事が重要である。

※この要約は講演内容をもとに事務局が作成したものです



TSUNAMIビジネスプラン発表会

in Japan Green New Deal Forum 2010

引き続き、2日目の午後2時より同会場においてTSUNAMIビジネスプラン発表会 in Japan Green New Deal Forum 2010と称し、注目のベンチャー企業合計13社によるプレゼンテーションが開催されました。この発表会は、ベンチャー支援機構TSUNAMIが毎月定例行事として開催しているビジネスプラン発表会とは別に設けられた発表会で、会場はフォーラムから引き続き、多くの参加者で溢れていました。一社につき持ち時間10分という短い時間にもかかわらず、各社とも内容の濃いプレゼンテーションが行われました。

発表企業一覧（発表順）

1. HYPER DRIVE 株式会社 (<http://www.hyperdrive-web.com/>)

発表者：米村 修治 様

次世代発電素材であるSRI型人工筋肉(EPAM)を使用した各種発電製品の開発、製造、販売。太陽や風力といった特定の自然エネルギーに限定されることなく、物体の「動き」に対して発電するこの方式は、応用範囲が広く、コストが安いことも特徴。

2. アクアサイエンス株式会社 (<http://www.aqua-sc.com/>)

発表者：砂金 養一 様

半導体で培った最先端洗浄技術をコアに産業用洗浄装置の開発・設計・販売を行う。洗浄には薬品ではなく蒸気やオゾン水を使うため、地球環境負荷の低減に貢献できる。今後は量産に向け、海外展開も図ってゆく。太陽電池、LED向けにも力を入れてプロモーションをしている。

3. 株式会社ピーアイ技術研究所 (<http://www.pird.co.jp/>)

発表者：菊地 靖雄 様

世界で初めて可溶性ブロック共重合ポリイミド(超耐熱性樹脂)の開発に成功した。常温保存が可能、機能性(接着性、感光性、ハンダ耐性、低誘電率、電着等)を付与することが可能などの特徴がある。神奈川県産業技術センターと、リチウムイオン電池の材料、ポリイミドの導電材料を開発している。

4. シコー株式会社 (<http://www.shicoh.com/>)

発表者：大杉 真司 様

携帯電話に使われている超小型モータの開発、製造。特に携帯電話用小型カメラのオートフォーカスレンズ駆動用に開発したボイスコイル方式リニアモータは世界的シェアを誇る。コアレスモータをベースとした小型風力発電機および水力発電機システム用の発電機の開発にも携わり、世界へ向けて展開していく。

5. イーメックス株式会社 (<http://www.eamex.co.jp/>)

発表者：瀬和 信吾 様

イオン伝導アクチュエータと導電性高分子アクチュエータの2つの素材技術を有している。世界初の高分子アクチュエータ技術の実用化を目指しており基礎研究から製品開発まで行う。センサ技術、キャパシタ技術の研究開発、製品応用開発(携帯電話カメラレンズ駆動デバイス、医療手術デバイス、人工筋肉)まで幅広く行う。

6. AJI 株式会社 (<http://www.ajisso.com/>)

発表者：国岡 功 様

実装分野における部品の加工、実装工程、検査といった分野が市場となる。ものを作ったり加工したりする実装装置ビジネスと、ウエハーレベルの光学部品製造に関わる製造ノウハウおよび特許のライセンス材料ビジネスが二本柱。携帯電話のカメラのレンズ、LEDに使われるレンズで使用されている。

7. リファインバース株式会社 (<http://www.r-inverse.com/>)

発表者：越智 晶 様

使用済みオフィス用タイルカーペットを素材(塩化ビニルやナイロン等)ごとに分離・回収する技術を確立し、再生した樹脂原料を再びカーペットなどの生産原料として提供する事業。塩化ビニル廃棄物からの再資源化、その後お客様に提供するまで、完全に循環したりサイクル方式を持つ。今後は名古屋、大阪へも拡大展開していく。

8. エピクルー株式会社 (<http://www.epicrew.com/>)

発表者：浜崎 保行 様

2003年、長崎県大村市へ企業勧誘を経て、同地にて半導体製造装置の製造、研究を行う。東京にも支社を構える。おもに「エピタキシャル工程」に特化したマーケットポジションで、製品および技術サポートを行う。中古装置を含めた販売だけではなく、プロセス開発にも強みを持っており、プロセス用のデモ装置を保有している。

9. アクアフェアリー株式会社 (<http://www.aquafairy.co.jp/>)

発表者：相沢 幹雄 様

高出力を保ちながら薄型の発電ユニットの開発、また、水素を必要な時に必要な分だけを生産させる水素発生技術を開発し、同時にコンパクトで非常に安全性の高い水素発生剤を量産することに成功した。外部充電器として、モバイル向け燃料電池である商品 FS-STICK を開発。今年前半からの販売を目指す。

10. 筑波精工株式会社 (<http://www.tsukubaseiko.co.jp/>)

発表者：傳 寶菜 様

ウエハー、基板、各種フィルムや絶縁体の吸着を解決する静電チャックシステムの設計、開発を行う。現在、静電チャックをベルト状に作り、2本のローラーに駆け渡す方式である静電吸着線出しベルトの開発を進めている。

11. 株式会社プロマテリアル (<http://www.pro-m.co.jp/>)

発表者：斎藤 正倫 様

スターリングエンジンの開発製造。外側から熱を加えて動くため「外燃機関」と呼ばれている。内燃機関と違い、様々な燃料・熱源で稼働できる。爆発を伴わないため、作動音が静かでありNOx等の排出物が少なく、環境面でも多くの長所を持つ。バングラディッシュ、タイなど東南アジアへの展開も予定されている。

12. ダブルスコープ株式会社 (<http://www.w-scope.com/>)

発表者：W.K. チョイ 様

高分子フィルム技術を擁し、燃料電池用白金触媒、FPD用偏光フィルム、産業用の機能性フィルム、産業と医療用のフィルターフィルムの開発製造。韓国に大規模な工場を持つ。主にリチウムイオン・バッテリー用セパレータフィルムの製造に力を入れており、今後も世界的なマーケット規模の拡大が予想されている。

13. ソーラーシリコンテクノロジー株式会社 (<http://www.ss-t.jp/>)

発表者：儀満 利夫 様

太陽電池用シリコン原料の開発・製造・販売。太陽電池セル・モジュールからシステムまでの太陽電池事業を展開。関西に建材一体型太陽電池モジュール(BIPV)の製造工場を持ち、太陽光発電の普及事業を展開。大学やパートナー企業との連携により次代を担う太陽電池セル・モジュール太陽光発電システムの研究・開発を行う。



【コメント】今回も各方面から多くの皆様にご参加頂き、大変充実したプログラムで非常によかったと嬉しいお言葉をたくさん頂戴いたしました。この場をお借りしまして、ご協力、ご参加頂きましたことに心からお礼を申し上げます。これからもTSUNAMIは、神奈川をシリコンバレー化することを目指し、日本経済の活性化に繋げていきたいと思っております。今後とも皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

NPO 法人ベンチャー支援機構 TSUNAMI

(TEL)045-470-8668 (FAX) 045-470-8818

大森/奈尾

(株)TSUNAMI ネットワークパートナーズ

(株)TSUNAMI オンザロード

(TEL)045-470-8088 (FAX) 045-470-8090

井汲/飯塚/吉岡